横浜市立屏風浦小学校
令和２年度　学力向上アクションプラン

１　中期学校経営方針

（１）学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
学び合い　笑顔かがやく　屏風の子	〈言語能力〉

（２）中期取組目標

中 期 取 組 目 標
確かな学びの充実 ○学習習慣を身に付け、集中力を高めるとともに、『できた』喜びを味わわせ、自己肯定感や自信につなげる。 ○身に付けさせたい資質や能力を明確にし、主体的・対話的な学びを通して、言語活動の充実と授業の質的向上を図る。 ○学年の実態に応じたスキルタイムの充実による学習の習熟と定着につなげる。 ○質の高い学校行事・体験活動の充実を図る。

（３）学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

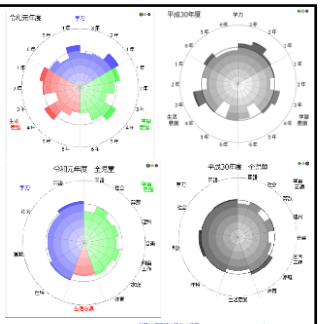
重点取組分野		具 体 的 取 組
生きてはたらく知		・個の実態に応じた支援をしながら、課題や身に付けさせたい資質や能力を明確にし、授業に取り組む。主体的・対話的な深い学びを通して、言語活動の充実と授業の向上を図る。 ・基礎的な学習事項の習熟と定着を図るとともに、少人数やＴＴ指導を積極的に取り入れた工夫をする。
担当	重点推進委員	

２　横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

（１）学力の概要の分析

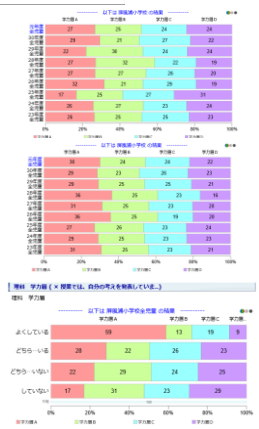
学力・生活意識調査ともに、学年によって差がみられる。また市平均同様、基礎・基本問題の正答率は高いが、活用問題では課題が見られる。しかし、理科や社会科においては思考を問われる問題において正答率に上昇が見られた。学習した内容がより生活の中で生かされるよう、実生活に結び付いた学習問題づくりや主体的に課題に取り組む姿勢の育成も引き続き必要である。

新しい学習への見通しをもち、児童が主体的に課題に取り組むことができる学習を行うとともに、今後も児童の「できる・分かる」といった自己肯定感を高める指導をしていくことが大切であると考える。そのために、少人数やＴＴ指導を積極的に取り入れた授業の工夫を行い、基礎的・基本的な学習の定着を推し進めていく。



（２）経年変化による分析

社会科と理科では、前年度と比べ、市平均得点を上回る児童の割合に上昇が見られた。本校では、二年間重点研究で特別活動に取り組んできた。自己や学級の課題を捉え、解決方法を考えたり、自分の考えを表現したりする経験を積み重ねてきた。学力状況調査において、活用問題などの場面で思考や表現にその成果が表れたと考えられる。主体的に課題に取り組む姿勢を育成し、考えを表現したり、実践したりする意欲を高めていくことで、さらなる学力の向上を目指していく。



（３）学習意識と学力層とのクロス集計による分析

理科を例にとると「授業では、自分の考えを発表している」と答えた児童のうち、市の平均得点を超える児童が７２％となっている。一方、「発表していない」と答えた児童のうち、平均得点を超える児童は、４８％となっており、発表の場面で考えを表現することができる児童は、学習内容をより深く理解していることがうかがえる。基礎的・基本的な学習の定着を進め、児童が自信をもって自分の考えを表現できるような指導の工夫を行い、思考の言語化やより実践的な知識・技能の習得を行っていくことが望ましい。

３ 令和２年度　学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す具体化した資質・能力	具体的取組	
		前半	後半
１年	◆相手の思いや考えを受け止めて聞く力 ◆感じたことを表現する力	○自分の経験と結び付けて聞いたり、感じたことを素直に表現したりできるような場面を意図的に取り入れていく。 ○語彙集めをしながら蓄えていき、伝え合う場面を意図的に設け、日常生活の中で使うことができるようにする。	
２年		○隣の席の友達と伝え合う場面を意図的に取り入れ、相手の考えを最後まで聞いたり、自分の考えを伝えたりする力を高めていく。 ○授業や日常生活の中で、耳にしたことや、説明をするときの言葉などを適時、共有していくことで、感想を伝えるときに、選択し、使うことができるようにしていく。	
３年	◆互いの考えの違いに気付く力 ◆伝える内容を明確にして考えをまとめる力	○ペアやグループの活動を積極的に取り入れ、自分の考えを伝えたり、友達の考えに触れたりする機会をつくっていく。 ○伝えたい内容の中心を意識させながら、様々な言語活動を経験させ、表現力を高めていく。	
４年		○自分の考えをもち、発信できる力を育てる。互いの考えを伝えられるようにするためにグループや学級全体で話し合う機会を積極的に設けていく。 ○互いの意見を交換する中で、質問するなどして情報を集めたり、それらの情報を発表したりできるようにしていく。	
５年	◆工夫して伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ◆目的や意図に応じて整理して伝える力	○自分と他者との共通点や相違点を考えながら、自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いたりできるようにしていく。 ○相手や目的に応じて、伝えるべき内容や方法を選んだり整理したりして、伝えようとする態度を養えるようにしていく。	
６年		○互いの違いを認め、自分の考えの伝え方を吟味し、多様な意見のよさを生かして自己の意見を深められるようにする。 ○目的や意図を意識しながら、学習したことを生かして伝えるべき内容を整理し、他者に向けてわかりやすく伝えようとする意欲をもてるようにしていく。	
個別支援学級	◆身近な語彙の豊かさ ◆感じたことを言葉にする力 ◆相手の思いを受け止めて聞く力	○個別の指導計画に基づき、授業で言葉集めや作文指導を行う。日常生活では、その場の様子や気持ちを表す言葉や使い方を適時指導していく。 ○授業で小グループでの交流を取り入れる。また、朝の会のスピーチや様々な行事を通して話すこと・聞くことの指導を行っていく。	